

思うところがあつて会社を退職し、シンガーソングライターとして新たに生き始めた人がいる。

五十三歳。今の世相にあつて、人々に何かのメッセージを伝えられたらという思いで始めた。そのメッセージとは、「責任を持つとよい」と「最初の気持ちを忘れずに」といったもの。普通のことか普通でなくなったと思われる現代社会の中にあつて、普通の「おやじ」の思いを伝えたいと考えた。全然触れたことのないギターを一から始め、

歌の練習も始めた、「思い」を伝えたいという一心から▼妻が信者であることから、教会でも歌つ



01.7.15

たりする。地域の方たちの集会でも歌う。この五月に初めてのCDを出した。タイトルは「おやじ

のラブソング」。このアルバムには同名の歌をはじめ、孫を見て感じたことを歌にした「小さな心」、結婚式の時から今までの思いをつづる「誓い」、子どもたちと浜辺で夕陽を見た時の優しい気持ちを歌った「夕暮れ」などが含まれている。普通の家庭の普通のおやじが、普通のおやじの思いを歌ったら、若者たちにも何かが伝わるのではないか、福岡県中間市在住の吉田さんは考える▼「愛」とか、「責任」とか、「人生」とか、そして「神」とか、普通に語れない世の中になった。仕事、便利、利益、快適さを最優先で求める社会の中にあつて、吉田さんの「普通の」メッセージは地道に受け入れられていくだろう。そこにはまだ希望が残っている。「福音」はある意味では「普通の」ことである。私たちの心の中にある普通の、自然の傾向を保証するものである。「愛」とか「神への思い」とか……それが一番大切で、そして「真の幸せ」につながっている。